

南国市の南北を結ぶ

新たな幹線道路完成

南国地区広域農道全線開通



県下最大の穀倉地帯に幹線農道を―昭和四十八年の着手から十七年をかけて南国地区広域農道が完成しました。途中経済事情の悪化等により工事が遅れたものの、六十二年の東道路に次ぐ南北幹線の開通で、農道として、また生活道としてその効果が期待されています。

5月8日に開通式

経済効果の期待大

南国市の田園地帯を南北に貫く南国地区広域農道が、着工以来十七年ぶりに全線開通。五月八日、永田で小笠原市長ら約二百二十人が出席して開通式が行われ、テープカットや交通安全



大型トラックや観光バスの利用も多い

パレードで全線開通を祝いました。

JR土讃本線と跨線橋で立体交差、国道、県道とは平面交差になっており、制限速度は五〇キロ。南国市はこれまで東西の幹線に比べ、南北を結ぶ幹線道路の整備が遅れており、北部から海岸地域まで結ぶこの広域農道の完成が早くから待ち望まれていました。

線、高知自動車道、高知空港などを最短距離で結んでおり、新しい南北幹線としての役割も期待されています。

広域農道の受益面積は、南国市全域から高知市、土佐山田町の一部を含む四、三〇九給。この地域は県下最大の米作地帯であるとともに施設野菜の生産が盛んに行われ、大都市への生鮮野菜の供給基地として重要な位置を占めています。

これまでは、南北交通の道路網が整備されておらず、農産物の輸送にも円滑さを欠いていました。全線開通によって迅速

な輸送が可能になりました。沿線には野菜集送センターやライセンサーなどの施設もあり、高速輸送体系の確立と、集出荷の効率化によるコストの低減が期待されます。

また、こう配やカーブが少なく、路面の高さを可能な限り低くし、同時に排水路も整備されるなど、営農の合理化と農村環境整備も図られています。

早くも

交通問題

全線開通から三週間、人身事

故などの重大事故はまだ起きていませんが、カーブが少なく見通しがよい、また、比較的交通量も少ないことから、早くも深夜に二輪車五、六台が一〇〇キロを越えるスピードで集団暴走行為を行っているという情報が、警察署に寄せられています。南国署によると、日中通行する車両にも、速度違反が多く見受けられるということです。広域農道には、その性格上歩道がなく、わき道もたくさんあり、一歩間違えば重大事故につながる心配する声が上がっています。

市政の現状を説明

奈路地区市政懇談会

四月二十四日に奈路公民館で、地元から約四十人が参加して奈路地区市政懇談会が開かれました。

会では、まず市長が市政の現状や展望を説明。続いて地元の抱える問題などについて、話し合いが行われました。主な内容は次のとおりです。

〔市政の現状〕

○市の財政は、借金が残っており、依然として苦しいが、市民の皆さんの要望も取り入れながら、少しずつ改善している。

○同和問題の解消にも努力している。生活環境は一定の財源と時間があれば改善されるが、精神的な差別の解消は、かなりの時間が必要ではないか。

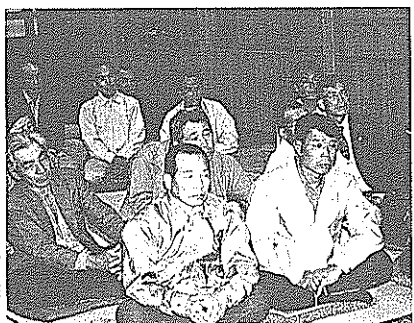
○教育についても重点施策の一つとして取り組んでおり、主に

校舎の改築等、環境の改善を進めてきた。今年には長岡小と岡豊小を計画しており、今後も順次整備していきたい。

○就職の機会を多くし、生活の安定を図るため、公害が起らないよう配慮しながら企業誘致を進めている。交通網の充実に伴って、進出を希望する企業も出てきた。カシオ計算機株式会社は、近いうちに進出があるものと考えている。

○し尿と廃棄物の処理場建設は、大きな課題の一つであり、全市民の理解と協力をお願いして進めていきたい。

このように、課題は多いが、産業田園都市として発展していくと考えている。これからは積極的な行政を進めていきたい。



市政について真剣に討論

